

## 大阪の「第3波」死者急増

新年2日午後、東京、埼玉、千葉、神奈川の首都圏1都3県の知事が、新型コロナウイルスの感染拡大が急拡大して、予断を許さない状況にあるのだ。大阪も医療崩壊に近い状況である。朝日新聞12月31日の表題記事を抜粋して紹介する。

リードから一新型コロナウイルスの「第3波」で大阪府内の死者が急増している。12月は30日発表までで250人。月別で最多だった11月の3倍を超えた。感染者数が全国でもっとも多い東京都と比べても約2倍。府内は高齢者施設が多く、クラスター(感染者集団)の発生も相次いでおり、府は危機感を強めている。

大阪で確認した12月1日～30日の新規感染者は9413人で死者は250人。東京の新規感染者は全国でもっとも多い1万7908人だが、死者は133人だった。大阪の死者は全国で2番目に多く、北海道の254人に続く。第3波の大阪の死亡率(23日時点)は1.7%で、第2波を0.2ポイント上回る。なぜ大阪の死者が多いのか。12月の死者250人の9割が70代以上。感染した場合のリスクが高い高齢の感染者が多いことが背景にある。府によると、11月29日～12月24日の年代別感染者数は、60～70代は1837人(21.7%)、80代以上は968人(11.4%)。東京都はそれぞれ、1698人(12.3%)、784人(5.7%)となっており、感染者数と割合のいずれも大阪の方が多。感染者が増えたのは高齢者施設などでクラスターが相次いだためだ。10月10日～12月23日に66施設で発生し、利用者や職員1211人が感染した。高齢者施設関連の死者は全体の4分の1を占める。

府のコロナ対策が後手にまわり、医療の逼迫につながったとの指摘もある。府は10月10日以降を「第3波」と位置付ける。10月23日には約1カ月半ぶりに100人台の新規感染者を確認したが、11月11日まで府対策本部会議を開かなかった。府はその間に「大阪コロナ重症センター」の開設に向けて医療機関などと看護師派遣について調整。吉村知事は「8月くらいから看護師さんの研修はしていた」とする。しかし、府の担当者は「重症患者が急激に増えるという認識ではなかった」と振り返る。大阪府医師会の茂松会長は「府内では地域医療の制限が始まっており、医療崩壊に近づいている」との危機感を示す。11月1日には「大阪都構想」の住民投票があった。自民党大阪市議団の北野妙子幹事長は「医療スタッフが不足するのは分かっていたこと。街宣車で賛成運動していた間、どれほど人材確保に走り回ったのか」と疑問視する。

大阪は「Go To 住民投票」の影響も無視できない。大阪府・市の対策を注視したい。

(2021年1月4日)

